

和歌山病院での実習を終えて



服部 仁美

今回、12月13日、14日の2日間和歌山病院で実習させていただきました。以前に障がい者施設実習でもお世話になったことがあり、臨床実習として再び訪れる機会を与えていただき、嬉しく思います。

駿田副院長の結核についてのセミナーでは、感染様式について考えることができました。実際にN95マスクを着けて結核病棟に入ること、実際の臨床の場における感染防御の方法を学びました。医療現場で非常に重要である正しい感染防御について考える良い機会となりました。臨床工学技師の方には、オペ場の中で実際に自分の口に呼吸器のマスクを当てて換気の方法を学習しました。麻酔科や救急をはじめ様々な科で必要な知識で、とても勉強になりました。南方院長のセミナーでは胸部X線の原理と読影方法について自分たちで考え、意見を出し合いながら教えていただきました。今まで胸部X線の読影に対して苦手意識がありました。しかし、セミナーで手を動かしながら考えたり、話し合ったりする中でX線の原理や肺の構造を理解することができ、胸部X線の読影が楽しくなりました。どうしても読影がしたくなり、実習の帰りにすぐに大学へ向かったことが忘れられません。これからたくさん症例を見ることでさらに細かい個所まで読影できるようになりたいです。また南方院長と研修医の先生にはおいしいご飯に連れて行っていただき、楽しくてためになるお話ができて嬉しかったです。

今回の実習では、呼吸器内科に限らず全領域で必要な知識を楽しみながらたくさん得ることができました。次は医師として和歌山病院に関われることを楽しみにしています。最後に、ご指導いただいた南方院長、駿田副院長、スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。